

2. たんの吸引(鼻腔内)

次は、鼻腔内からのたんの吸引です。

手順①:本人から吸引の依頼を受ける。あるいは、本人の意思、
状態を確認する。
吸引の環境、本人の姿勢を整える。
鼻腔周囲を観察する。

• 留意事項

- ・必要性のある時だけ行っているか。
- ・効果的にたんを吸引できる体位か。
- ・出血、腫れなどのチェックをしたか。

手順①

本人から吸引の依頼を受ける。あるいは、本人の意思を確認します。
また、吸引の環境、本人の姿勢を整え、鼻腔周囲を観察しましょう。

その際には、

- ・必要性のある時だけ行っているか。
 - ・効果的にたんを吸引できる体位か。
 - ・出血、腫れなどのチェックをしたか。
- などに留意します。

手順②:両手を洗って、利き手に未滅菌手袋をする。

- 留意事項
 - ・本人の体に接触した後、吸引前の手洗いを行っているか。

手順③:吸引カテーテルを不潔にならないように取り出す。

- 留意事項
 - ・個別マニュアルに沿った吸引カテーテル保持方法を守っているか。
 - ・衛生的に、器具の取扱いができているか。
 - ・カテーテルの先端をあちこちにぶつけていないか。

手順②

両手を洗って、利き手に未滅菌手袋をする。

本人の体に接触した後、吸引前の手洗いを行っているか、などに留意しましょう。

本テキストでは、「利き手に未滅菌手袋をする。」こととしていますが、厚生労働省作成テキストでは、「流水と石けんで手洗い、あるいは速乾性擦式消毒剤で手洗いする。必要に応じ未滅菌手袋をする。場合によってはセッシを持つ。」と示されています。ここで未滅菌手袋を使用するのは、集団生活を送る学校において、実施する教員等の手を介して様々な感染が生じるのを防ぐためです。

手順③

吸引カテーテルを不潔にならないように取り出します。

その際には、

- ・個別マニュアルに沿った吸引カテーテル保持方法を守っているか。
- ・衛生的に、器具の取扱いができているか。
- ・カテーテルの先端をあちこちにぶつけていないか。

を確認しましょう。

手順④: 吸引カテーテルを吸引器に連結した接続管につなげる。

• 留意事項

- ・衛生的に操作できているか。

手順⑤: 手袋をしていない方の手で吸引器のスイッチを入れる。
薬液浸漬法の場合、水を吸って吸引カテーテルの内腔を洗い流すとともに、吸引カテーテルの周囲を洗う。
決められた吸引圧になっていることを確認。

• 留意事項

- ・衛生的に、器具の取扱いができているか。
- ・吸引圧は20キロパスカル以下、毎回確認の必要はない(個別マニュアルに従って行う)。

手順④

吸引カテーテルを吸引器に連結した接続管につなげます。

留意事項は、衛生的に操作できているか、などです。

手順⑤

手袋をしていない方の手で吸引器のスイッチを入れる。薬液浸漬法の場合、水を吸って吸引カテーテルの内腔を洗い流すとともに、吸引カテーテルの周囲を洗います。

決められた吸引圧になっていることを確認しましょう。

留意事項は

- ・衛生的に、器具の取扱いができているか。
- ・吸引圧は20キロパスカル以下、ただし、毎回確認の必要はありませんが、個別マニュアルに従って行ってください。

などです。

手順⑥:吸引カテーテルの先端の水をよく切る。

- 留意事項
・よく水を切ったか。

手順⑦:「吸引しますよ～」と声をかける。

- 留意事項
・本人に合図を送り、心の準備を
してもらっているか。
・必要に応じて親や看護師等の協
力を得ながら行っているか。



手順⑥

吸引カテーテルの先端の水をよく切ります。

その際には、よく水を切ったかに留意してください。

手順⑦

「吸引しますよ～」と声をかけます。

- ・本人に合図を送り、心の準備をしてもらっているかが重要です。
- ・必要に応じて家族や看護師等の協力を得ながら行っているかが重要です。

手順⑨:使用済み吸引カテーテルの外側を先端に向かってアルコール綿で拭き取った後、洗淨水(水道水等)を吸って内側を洗い流す。



• 留意事項

- ・外側に分泌物がついたカテーテルをそのまま洗淨水(水道水等)に入れて水を汚染していないか。
- ・洗淨水や消毒液を吸いすぎているか。
- ・カテーテルに分泌物が残っていないか。

手順⑨

使用済み吸引カテーテルの外側を先端に向かってアルコール綿で拭き取った後、洗淨水(水道水等)を吸って内側を洗い流します。

- ・外側に分泌物がついたカテーテルをそのまま洗淨水(水道水等)に入れて水を汚染していないか。
 - ・洗淨水や消毒液を吸いすぎているか。
 - ・カテーテルに分泌物が残っていないか。
- などに留意しましょう。

手順⑩: 消毒液を吸引カテーテル内に吸引する。

手順⑪: 吸引器のスイッチを切る。(吸引終了)

• 留意事項

- ・吸引器の機械音は、吸引が終わったらできるだけ早く消したい。

手順⑫: (薬液浸漬法の場合) 吸引カテーテルを連結管からはずし、消毒液の入った保存容器にもどす。

手順⑬: 手袋をはずす。手洗いをする。

手順⑩

消毒液を吸引カテーテル内に吸引します。

手順⑪

吸引器のスイッチを切って、吸引終了です。

吸引器の機械音は、吸引が終わったらできるだけ早く消すようにしましょう。

手順⑫

(薬液浸漬法の場合) 吸引カテーテルを連結管からはずし、消毒液の入った保存容器にもどします。

手順⑬

手袋をはずします。手洗いをします。

手順⑭: 本人に吸引が終わったことを告げ、確認できる場合、
たんがとれたかを確認する。
本人の顔色、呼吸状態等を観察する。
吸引した物の量、性状等について、ふり返り確認する。

• 留意事項

- ・本人の意思を確認しているか。たんがとれ切れていない場合はもう一回繰り返すかを聞いているか。
- ・頑張りを認めた声かけをしているか。
- ・苦痛を最小限に、吸引できたか。
- ・本人の状態観察を行えているか。経鼻胃管使用者では、経鼻胃管が吸引後、口腔内に出てきていないかを確認。
- ・吸引したたんの量・色・性状を見て、たんに異常はないか確認しているか。
(異常があった場合、家族や看護師等、医師に報告したか。感染の早期発見につながる。)

手順⑭

本人に吸引が終わったことを告げ、確認できる場合、たんがとれたかを確認します。
本人の顔色、呼吸状態等を観察するとともに、吸引した物の量、性状等について、ふり返り確認しましょう。

その際には、

- ・本人の意思を確認しているか。たんがとれ切れていない場合はもう一回繰り返すかを聞いているか。
- ・頑張りを認めた声かけをしているか。
- ・苦痛を最小限に、吸引できたか。
- ・本人の状態観察を行えているか。経鼻胃管使用者では、経鼻胃管が吸引後、口腔内に出てきていないかを確認。
- ・吸引したたんの量・色・性状を見て、たんに異常はないか確認しているか。
(異常があった場合、家族や看護師等、医師に報告したか。感染の早期発見につながる。)

などに留意しましょう。

手順⑮: 吸引びんの廃液量が70～80%になる前に廃液を捨てる。

- 留意事項
- ・手早く片付けているか。
- ・吸引びんの汚物は適宜捨てる。

手順⑯: 洗浄水は毎回取り換える。また、保存容器の消毒液は残りが少なければ取り換える。

- 留意事項
- ・洗浄水や消毒液は継ぎ足さず、ビンごと取り換える。

手順⑰: 評価票に記録する。ヒヤリハットがあれば報告する。

- 留意事項
- ・記録し、ヒヤリハットがあれば報告したか。(ヒヤリハットは業務の後に記録する)

手順⑮からは片付けを行います。

吸引びんの廃液量が70～80%になる前に廃液を捨てましょう。

その際には、

- ・手早く片付け、
- ・吸引びんの汚物は適宜捨てます。

手順⑯

洗浄水は毎回取り換えます。また、保存容器の消毒液は残りが少なければ取り換えます。洗浄水や消毒液は継ぎ足さず、ビンごと取り換えましょう。

手順⑰

評価票に記録し、ヒヤリハットがあれば報告します。

ヒヤリハットは業務の後に記録します。